

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期津久見市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

大分県津久見市

3 地域再生計画の区域

大分県津久見市の全域

4 地域再生計画の目標

津久見市の人口は、1960年の37,164人をピークに減少しており、住民基本台帳によると2025年の4月1日現在には14,844人まで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所によると、2050年には総人口が6,800人となる見込みである。

年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口（0～14歳）は1960年の12,861人をピークに減少し、2020年には1,420人となる一方、老年人口（65歳以上）は1960年の2,451人から2020年には7,242人と増加の一途をたどっており、今後も少子高齢化がさらに進むことが想定されている。また、生産年齢人口（15～64歳）も1965年の23,210人をピークに減少傾向にあり、2020年には7,438人となっている。

2010年以降の自然動態をみると、自然減で推移し、2024年では254人の自然減となっている。要因として、母親になる年齢層の減少に伴う出生数の減少や未婚利率の上昇等が考えられる。

2010年以降の社会動態をみると、減少幅にばらつきはあるものの、社会減で推移しており、2024年では141人の社会減となっている。就職や就学を機にした若者の転出などが主な要因となっていると考えられる。

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退等、住民生活への様々な

影響が懸念される。

これらの課題に対応するため、これまで力を入れてきた子育て世代に選ばれる環境づくりに加え、全ての人が地域で学び育つことができる人材育成、基幹産業だけでなく、若者のニーズ把握にも努めた新たな産業の創出、防災や生活インフラの整備などの安心安全な暮らしの整備に加え、その上に成り立つまちの賑わい創出を通じて人口減少のスピードを緩やかにしていく。

なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

- ・基本目標1 すべての人を大事にし、育てるまち
- ・基本目標2 多様な産業で豊かさを感じるまち
- ・基本目標3 誰もが安心して生活の豊かさを実感して暮らせるまち
- ・基本目標4 津久見との「ゆかり」を大切に、新しい人やものの流れをつくるまち

【数値目標】

| 5-2の ①に掲げ る事業 | K P I | 現状値 (計画開始時点) | 目標値 (2030年度) | 達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標 |
|---------------------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------------------|
| ア | 15歳以下の転入者と転出者数の差 | -1人 | 0人以上 | 基本目標1 |
| イ | 企業誘致・立地件数(累積) | 1件 | 3件 | 基本目標2 |
| ウ | 空き家情報バンク成約(利活用)数 | 6件/年 | 6件/年 | 基本目標3 |
| エ | 企業誘致・立地件数(累計) | 1件 | 3件 | 基本目標4 |

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2とおおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

津久見市まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 「すべての人を大事にし、育てるまち」推進事業

イ 「多様な産業で豊かさを感じるまち」推進事業

ウ 「誰もが安心して生活の豊かさを実感して暮らせるまち」推進事業

エ 「津久見との「ゆかり」を大切に、新しい人やものの流れをつくるまち」
推進事業

② 事業の内容

ア 「すべての人を大事にし、育てるまち」推進事業

人口が減少する中において、多様な場面において、子どもから大人まで
すべての人を大事にし、安心して子どもを産み育てやすい環境づくり、学
校教育に限らず生まれ育った地域を誇りに思い、関わりを持ち続けたくな
るような取組、社会教育を通じた生活の充実など全ての世代において津久
見の良さを感じてもらふことで、人口減少に歯止めをかけるための事業

【具体的な事業】

- ・ 保育料の無償化や放課後児童クラブの無償化、学校給食への支援など
未就学児から児童生徒まで、子育てのステージに応じた支援策の充実
- ・ 基礎的・基本的な知識や技能の定着や自ら主体的に学ぶ意欲の育成
- ・ 津久見市の歴史や基幹産業などを学ぶことが子どもたちの津久見市へ
の愛着や誇りの醸成につながる「つくみ学」の造成 等

イ 「多様な産業で豊かさを感じるまち」推進事業

石灰石・セメント産業などの基幹産業を本市の強みとして活かしつつ、
働き方が多様化する中で、若者や女性の働く場の確保につながるような新
たな産業の創出を図るほか、様々な分野において担い手不足や事業承継を
図る事業

【具体的な事業】

- ・ 第1次産業の担い手確保に向けた、後継者や新規就業者に対する育成・

取組の推進

- ・中高生による地域産業の見学・体験、産業の成り立ちや現況を学ぶ機会を設ける取組などにより郷土愛、定住意欲を醸成するとともに、仕事に対する認識・理解を深めることで将来的に市内の事業所に興味を持ってもらう取組の推進

- ・若者のニーズ把握に努めながら、基幹産業の発展に加えた新たな産業の可能性の検討

- ・創業支援事業などによる空き店舗を活用した、起業・創業に向けたチャレンジ支援制度の構築 等

ウ 「誰もが安心して生活の豊かさを実感して暮らせるまち」推進事業

防災・減災対策の充実や介護や医療、公共交通などの生活インフラの維持確保を図ることで市民が安心・安全を実感できるとともに、中心市街地の活性化など、地域での生活を楽しいと感じてもらえることができるような賑わいの創出を図る事業

【具体的な事業】

- ・各地域の自主防災組織の充実や防災備蓄品の整備を進めるほか、防災訓練、防災知識の普及・啓発の推進などによる地域防災力の向上

- ・介護、福祉、保育サービスなどにおける人材確保

- ・市役所新庁舎及び周辺環境の整備による市中心部の回遊性・滞在性の向上

- ・本市に住み続けたい、あるいは移住したいというニーズに沿った定住支援制度の充実 等

エ 「津久見との「ゆかり」を大切に、新しい人やものの流れをつくるまち」推進事業

津久見で育った人が、市外にいても津久見に想いを馳せ、いつかは帰りたいと思ってもらえるような関係づくりの構築、行政サービスを効率的・効果的に進めるための大分都市広域圏などをはじめとする広域的な団体との連携、津久見出身者やゆかりのある方々とのつながりの構築・関係人口の創出を図る事業

【具体的な事業】

- ・「いつかは津久見に帰りたい」と思ってもらえるような、ふるさと教育などによる津久見市への愛着や津久見を想う心の醸成
- ・津久見市出身者が集う場での情報発信を強化し、津久見市出身者が積極的にふるさととの関わりを保ち続けることができるような関係の構築
- ・イベントや仕事等をきっかけとした「つくみFAN」の構築 等

※なお、詳細はまち・ひと・しごと創生 津久見市第3期総合戦略のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

3,000,000 千円（2026年度～2030年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度10月を目途に外部有識者を含めた産学官金言労士、住民代表、市内各団体等による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに津久見市公式ホームページ上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2026年4月1日から2031年3月31日まで

6 計画期間

2026年4月1日から2031年3月31日まで